

丸徳グループ

車両分科会

だ よ り

Vol. 7

丸徳グループ各社従業員の皆様
毎日の業務、ご苦労様です。

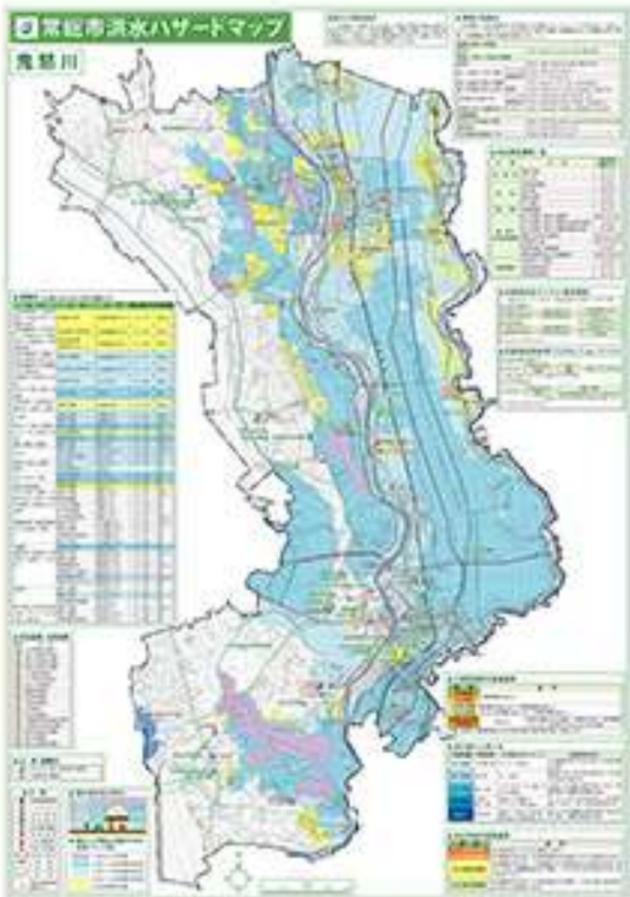
今月の記載内容は・・・

- ・ **台風・大雨時** 運転の危険！
- ・ **エコドライブ** のすすめ！
- ・ **秋の全国交通安全運動** について
- ・ 愛知県警からのリーフレット
- ・ 危険予知トレーニング〔前回の解答例〕
- ・ 今月の**危険予知** トレーニング

台風・大雨時の クルマに関する注意点

- 台風や大雨の危険が近づいているというニュースや気象情報を見聞きしたら、アンダーパスや川沿い、海岸沿い、急傾斜地など、**危険な場所には近づかないようにしましょう。危険を感じたり、市区町村からの避難勧告等があった場合は、あわてずすみやかに避難しましょう**

◇ハザードマップで危険箇所を確認



日頃から、市区町村が作成している「ハザードマップ」を活用して、危険箇所を確認しておきましょう。

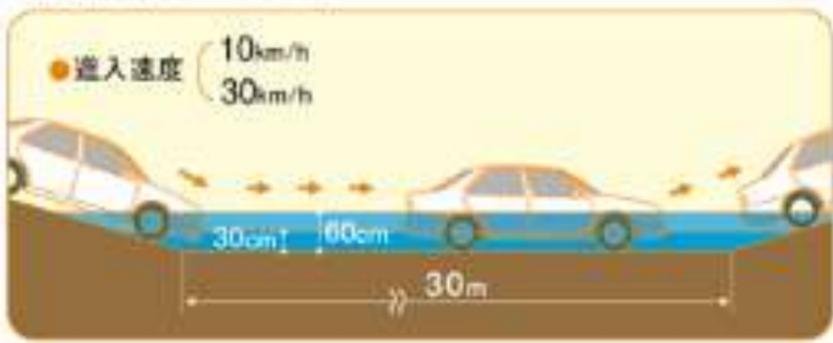
あらかじめ知っておくことで、早めに避難行動をとったり、危険を回避して移動したりすることができます。

- ・ [国土交通省ハザードマップポータルサイト](https://disaportal.gsi.go.jp/)

<https://disaportal.gsi.go.jp/>

◆冠水路での自動車走行テスト

●冠水路のコース図



浸水深が大きくなると、自動車の走行に支障をきたし、避難行動が困難になります。水位が上がり始める前に避難することが重要です

浸水深	速度	走行可否	結果コメント
30cm	時速 10km	○	フロントバンパーの上部に水が接する程度で、フロントグリル部分から直接水が入ることはなく、コース設定の30mを走行した
	時速 30km	○ ※エンジンルームに入水	時速10kmに比べて巻き上げる水の量が多くなり、エンジンルームに多量の水が入ったが、コース設定の30mは走行した
60cm	時速 10km	×	フロントガラスの下端まで水をかぶり、すぐには止まらずも、登りのスロープに差し掛かった31m地点でエンジン停止
	時速 30km	— ※テストなし	水深60cmの時速30kmのテストは時速10kmの段階ですでにエンジンが停止したため、実施しておりません

◆車が水没してしまった場合

- ① **外の水位との差が小さくなったときが脱出のタイミング**です。圧力の差が縮まるためドアにかかる水圧も小さくなるので、ドアが開けやすくなります
- ② ドアが開きそうな状態であると感じたら、大きく息を吸い込み足など力を込めて押し開けます。
落ち着いて脱出の機会をうかがいながら、そのタイミングを逃さず、一気に脱出をはかりましょう。

◎事前の準備と、落ち着いた対応を心がけましょう

今すぐはじめよう!!

エコドライブ 10のすすめ

エコてんくん。と学ぼう!



その1 自分の燃費を把握しよう

自分の車の燃費を把握することを習慣にしましょう。日々の燃費を把握すると、自分のエコドライブ効果が実感できます。車に装備されている燃費計・エコドライブナビゲーション・インターネットでの燃費管理などのエコドライブ支援機能を使うと便利です。



その2 ふんわりアクセル「eスタート」

発進するときは、穏やかにアクセルを踏んで発進しましょう(最初の5秒で、時速20km程度が目安です)。日々の運転において、やさしい発進を心がけるだけで、10%程度燃費が改善します。焦らず、穏やかな発進は、安全運転にもつながります。



その3 車間距離にゆとりをもって、加速・減速の少ない運転

これ大事!! 走行中は、一定の速度で走ることを心がけましょう。車間距離が短くなると、ムダな加速・減速の機会が多くなり、市街地では2%程度、郊外では6%程度も燃費が悪化します。交通状況に応じて速度変化の少ない運転を心がけましょう。



- ※1: 交差点で自らエンジンを止める手動アイドリングストップは、以下の点で安全性に問題があるため注意しましょう。(自動アイドリングストップ機能搭載車は問題ありません。)
- 手動アイドリングストップ中に何度かブレーキを踏むとブレーキの効きが悪くなります。
- 慣れないと誤動作や発進遅れが生じます。またバッテリーなどの部品寿命の低下によりエンジンが再始動しない場合があります。
- エアバッグなどの安全装置や方向指示器などが作動しないため、先頭車両付近や坂道での手動アイドリングストップは避けましょう。
- ※2: -20℃程度の極寒冷地など特別な状況を除き、走りながら暖めるウォームアップ走行で充分です。
- ※3: タイヤの空気圧は1ヶ月で5%程度低下します。
- ※4: 適正値より50kPa(0.5kg/cm²)不足した場合。



その4 減速時は早めにアクセルを離そう

信号が変わるなど停止することがわかったら、早めにアクセルから足を離しましょう。そうするとエンジンブレーキが作動し、2%程度燃費が改善します。また、減速するときや坂道を下るときにもエンジンブレーキを活用しましょう。



その5 エアコンの使用は適切に

車のエアコン(A/C)は車内を冷却・除湿する機能です。暖房のみ必要なときは、エアコンスイッチをOFFにしましょう。たとえば、車内の温度設定を外気と同じ25℃に設定した場合、エアコンスイッチをONにしたままだと12%程度燃費が悪化します。また、冷房が必要なときでも、車内を冷やしすぎないようにしましょう。



その6 ムダなアイドリングはやめよう

待ち合わせや荷物の積み下ろしなどによる駐停車の際は、アイドリングはやめましょう(※1)。10分間のアイドリング(エアコンOFFの場合)で、130cc程度の燃料を消費します。また、現在の乗用車では基本的に暖機運転は不要です(※2)。エンジンをかけたらずきに出発しましょう。



その7 渋滞を避け、余裕をもって出発しよう

出かける前に、渋滞・交通規制などの道路交通情報や、地図・カーナビなどを活用して、行き先やルートをおらかじめ確認しましょう。たとえば、1時間のドライブで道に迷い、10分間余計に走行すると17%程度燃料消費量が増加します。さらに、出発後も道路交通情報をチェックして渋滞を避ければ燃費と時間の節約になります。



その8 タイヤの空気圧から始める点検・整備

タイヤの空気圧チェックを習慣づけましょう(※3)。タイヤの空気圧が適正値より不足すると、市街地で2%程度、郊外で4%程度燃費が悪化します(※4)。また、エンジンオイル・オイルフィルター・エアクリナーエレメントなどの定期的な交換によっても燃費が改善します。



その9 不要な荷物はおろそう

運ぶ必要のない荷物は車からおろしましょう。車の燃費は、荷物の重さに大きく影響されます。たとえば、100kgの荷物を載せて走ると、3%程度も燃費が悪化します。

また、車の燃費は、空気抵抗にも敏感です。スキーキャリアなどの外装品は、使用しないときには外しましょう。

その10 走行の妨げとなる駐車はやめよう

迷惑駐車はやめましょう。交差点付近などの交通の妨げになる場所での駐車は、渋滞をもたらします。

迷惑駐車は、他の車の燃費を悪化させるばかりか、交通事故の原因にもなります。迷惑駐車のない道路では、平均速度が向上し、燃費の悪化を防ぎます。

知ってトクする!!

エコドライブのヒント

その1

ハイブリッド車や電気自動車のエコドライブ運転のコツは、モーターをできるだけ活用すること。

●発進と加速はモーターの得意分野 (ハイブリッド車のみ)

クルマは発進時に多くガソリンを消費します。できるだけエンジンを使わずに、モーターの力で穏やかに発進し、エンジンが作動したら目的速度までモーターの力も活かして穏やかに加速。一定速度になったら、できるだけムダな加速や減速をしないよう心がけましょう。アクセルを緩めてできるだけモーターのみで走行することで燃費が良くなります。

●ブレーキは発電のチャンス

減速時に前方の状況に注意して、早めにアクセルを戻し、長い距離をかけて穏やかに減速していくことがポイント。やさしくブレーキを踏むことでモーターで発電した電力がバッテリーに充電され、次の発進・加速時に再利用するので燃費が良くなります。

ハイブリッド車のエンジン稼働図 (できるだけエンジンがかからない運転をしましょう)

その2

エコドライブ支援ツールを積極的に使いましょう。

様々なエコドライブ支援ツールを利用することで、簡単にエコドライブに取り組めます。

①エコドライブランプ[®]を点灯するように運転しましょう。アクセルを徐々に踏んで運転することになり、燃費が良くなります。

②エコドライブスイッチ[®]をONにしましょう。穏やかに加速するようにクルマが制御し、燃費が良くなります。

(※メーカーによって名称は異なります。)

その3

エコドライブで交通事故が減ると言われています。

穏やかに発進、穏やかに停止、十分に車間距離をとるなど、ゆとりのあるエコドライブを心がけましょう。これにより交通事故が約60%減少したという報告もあります。エコドライブでエコだけでなく安全運転にもなって一石二鳥ですね。

エコドライブ学習前: 約5.5 事故件数/百万km

エコドライブ学習後: 約1.8 事故件数/百万km

約60%減少

エコドライブによる交通事故減少の例

参考: エコドライブ普及連絡会作成リーフレット

安全にもつながり、地球にもお財布にもやさしいエコドライブ。

いつもの運転を少し変えて、交通事故をみんなで減らしましょう!!

まずはみんなで安全確認!

みんなで守ろう交通ルール



令和5年9月21日(木) ~ 9月30日(土)

秋の全国交通安全運動



チャイルドシート着用推奨
シンボルマーク「カチャビョン」

9月30日(土)は「交通事故死ゼロを目指す日」です



こどもと高齢者を
始めとする歩行者
の安全の確保



夕暮れ時と夜間の
交通事故防止及び
飲酒運転等の根絶



自転車等のヘルメット
着用と交通ルール遵守
の徹底



内閣府
交通安全対策
オフィシャル
サイト

9月30日(土)は「交通事故死ゼロを目指す日」です

みんなで交通ルールを守って事故ゼロにしよう!



こどもと高齢者を始めとする歩行者の安全の確保



左右を確認しよう!

歩行者も交通ルールを守ろう!

歩行者が道路横断中の交通事故が多発しています。信号は必ず守りましょう。横断歩道では必ず止まり、左右の安全を確かめてから渡りましょう。横断中も周囲の状況を確認しましょう。

反射材を活用しよう!

地域・家庭で、日頃から通学路や生活道路等の安全を確かめましょう。夕暮れ時や夜間の時間帯には反射材を身に付けて、自分の存在をアピールしましょう。

夕暮れ時と夜間の交通事故防止及び飲酒運転等の根絶



歩行者を優先しよう!
早めにライトを点灯しよう!

横断歩道は歩行者優先! 夕暮れ時は早めのライト点灯を!

横断歩道は歩行者優先です。運転者には横断歩道手前での減速義務や停止義務があります。歩行者や他の車両に対する「思いやり・ゆすり合い」の気持ちを持って運転をしましょう。また、秋になると日没時間が早まります。夕暮れ時は、早めのライト点灯を心掛けましょう。

お酒を飲んだら運転しない、 させない! 妨害運転しない!

飲酒運転は、極めて悪質・危険な行為です。「飲酒運転を絶対にしない、させない」という強い気持ちを持ち、飲酒運転を根絶しましょう。また、妨害運転(いわゆるあおり運転)も絶対にやめましょう。



飲酒運転はダメ!

自転車等のヘルメット着用と交通ルール遵守の徹底



ヘルメットを着用しよう!

自転車も特定小型原動機付自転車も ヘルメット着用!

自転車のヘルメット非着用時の致死率は、着用時と比べて高くなります。自転車を利用するときは、ヘルメットを必ず着用しましょう。また、特定小型原動機付自転車(いわゆる電動キックボード等)に乗るときも、ヘルメットを着用し、交通ルールを守りましょう。

◆ 自転車安全利用五則 ◆

1. 車道が原則、左側を通行
歩道は例外、歩行者を優先
2. 交差点では信号と一時停止を守って、安全確認
3. 夜間はライトを点灯
4. 飲酒運転は禁止
5. ヘルメットを着用



令和5年 9月21日(木)~9月30日(土)

秋の全国交通安全運動

内閣府





ゴ-ナナ
夕方の5~7は“魔の時間”

交通事故防止のPOINT

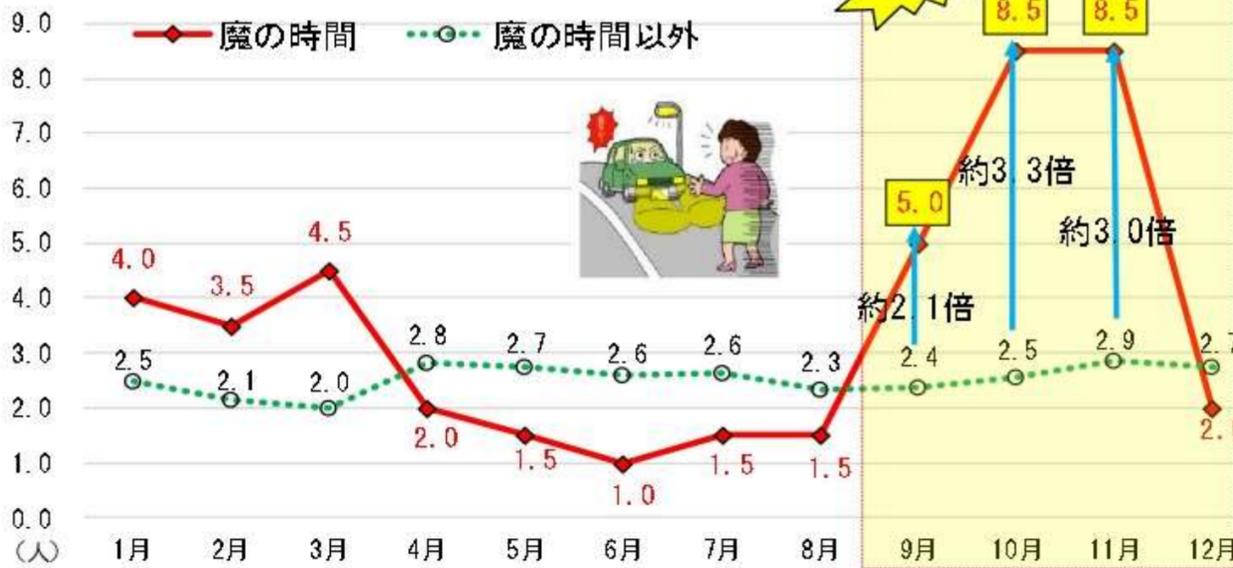


9月以降は、魔の時間(※)に注意!

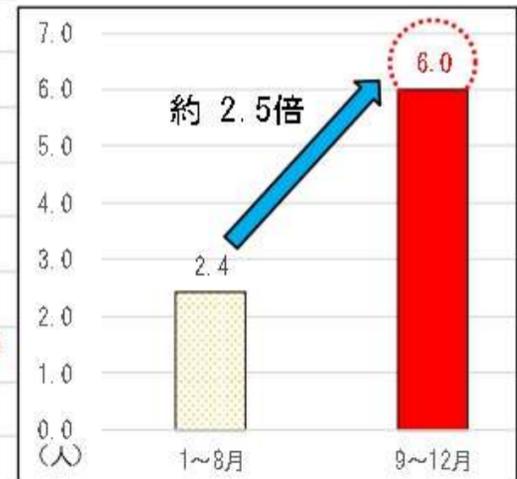
《 過去5年 月別・魔の時間(※)における1時間あたりの死者数 》

※魔の時間は、17時台、18時台の2時間

- 各表に記載の倍率は、表記されていない少数点以下の数値を含めた実数で算出した値
- 1時間あたりの死者数とは、魔の時間は2時間、魔の時間以外、その他22時間で発生した死者数を1時間あたりに割り戻した値

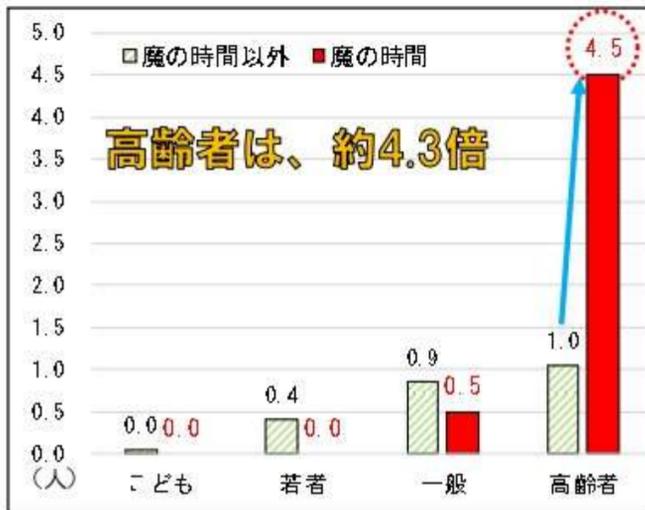


「1月~8月」と「9月~12月」の魔の時間1時間あたりの死者数の比較

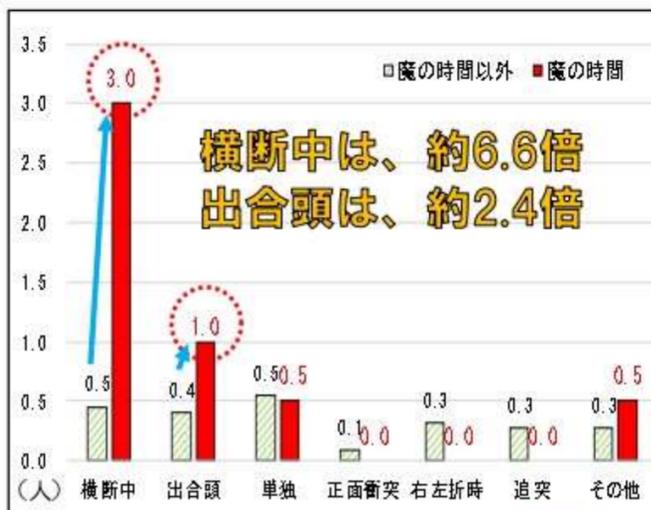


以下は、過去5年9月中における「魔の時間」と「魔の時間以外」の1時間あたりの死者数比較

【年齢別(人)】



【事故類型別(人)】



反射材の活用を!



9月は、日没時刻が日に日に早まり、月初めと月末の日没時刻の差が最も大きい月です。

夕暮れ時は、ドライバーの方は、速度を落として安全運転に努め、歩行者の方は、反射材の活用や明るい服装、自転車の方は、早めのライト点灯で安全行動に努めましょう。



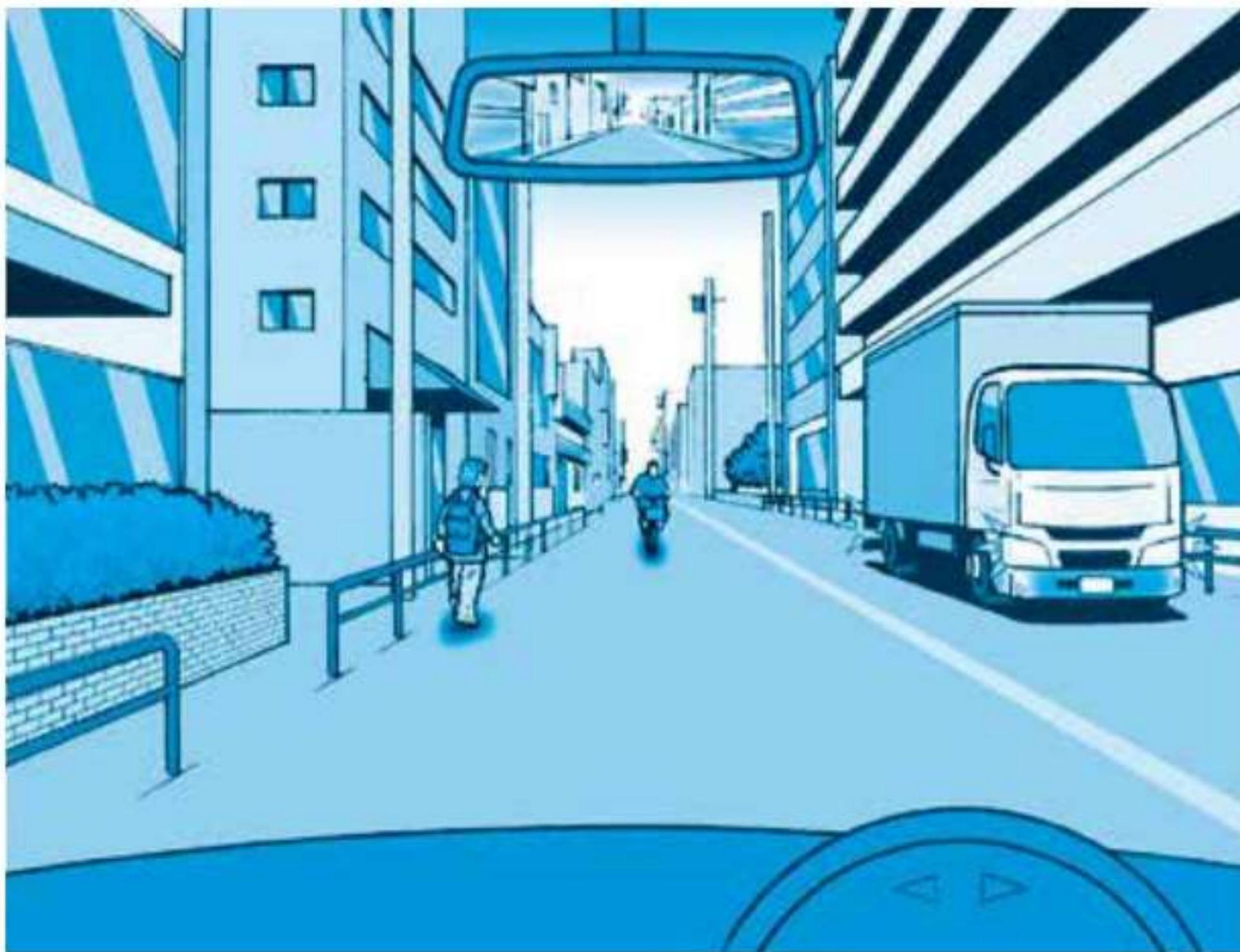
秋の全国交通安全運動
高齢者交通安全週間

9月21日(木)~9月30日(土)

9月14日(木)~9月20日(水)

※各表は、過去5年間(H30~R4年)に愛知県内で発生した交通死亡事故等を分析した結果です。

毎号、危険予知トレーニングのイラストや写真を掲載します。運転者として、又は同乗者として潜む危険を見つけて下さい。



回答例

危険予知ポイント

- ①前方の自転車や歩行者と衝突する。
- ②駐車トラックの死角から飛び出してきた歩行者と衝突する。

❖前方の自転車と歩行者に注意を払う

- 直線道路だからといって漫然と走行していると、前方から接近してきた自転車と衝突する危険があります。また、左側にいる歩行者が突然道路を横断してくることも考えられます。
- この場面では、自転車や歩行者の動静をよく確認しながら進行しましょう。

❖周囲の安全もしっかり確認する

- 右側に駐車しているトラックが死角を作っています。自転車と歩行者をやり過ごしたからといって安心していても、トラックの死角から歩行者等が飛び出してきた場合、衝突する危険があります。
- 走行中は、周囲の死角部分にまで意識を向けましょう。

KYT(危険予知トレーニング)

毎号、危険予知トレーニングのイラストや写真を掲載します。運転者として、又は同乗者として潜む危険を見つけて下さい。



ドライバーとして

- イラストを見て、この運転場面に潜む危険要因を挙げてください。
- この場面での安全な運転方法について考えてください。

同乗者として

ドライバーにどのようなアドバイスをすればいいでしょうか。考えてください。

状況説明

交通量の多い片側2車線の道路を走行しています。前方の信号が青になり、前々車が動き始めました。

自車は前方の交差点を左折したいのですが……。

回答例は次回の車両分科会だよりに掲載します。